



平成 24 年 3 月 25 日 発行 鷹山宇一記念美術館友の会

〒 039-2501 青森県上北郡七戸町字荒熊内 67-94 七戸町立鷹山宇一記念美術館内

TEL 0176-62-5858 FAX 0176-62-5860 e-mail info@takayamamuseum.jp http://www.takayamamuseum.jp/



吉野 毅 「鷹山宇一先生のレリーフ」

## ■吉野 毅 Takeshi-Yoshino

1943年 千葉県生  
1967年 東京芸術大学彫刻科卒業  
1968年 第53回二科展彫刻部初出品 特選受賞  
1969年 二科会彫刻部会友推挙  
1974年 二科会彫刻部会員推挙  
1982年 第67回二科展彫刻部口マ賞受賞  
1985年 第70回二科展彫刻部会員努力賞受賞  
2003年 第88回二科展彫刻部文部科学大臣賞受賞  
現在 二科会彫刻部理事



吉野 毅 「夏を終り '11」 H186×W57×D50

彫刻家・吉野毅先生が、2011年度の日本芸術院賞に選ばれました。優れた芸術作品の創作や芸術の進歩に大きな貢献を果たされた方々に贈られる、大変な名誉を受賞されたのです。対象となった作品は第96回二科展出品の「夏の終り '11」。

吉野先生とは今年で18年のお付き合いになります。鷹山美術館開設当初から当財団の理事としてお力添えをいただけてきました。制作活動のみならず二科会理事としても大変お忙しい毎日を送られていますので、年一回お目にかかれるかどうか、なのですが、しかしいつも、不勉強で至らぬ学芸員であり続けたわたくしにも「大池さん」と尾てい骨直下型の素敵な低音のお声で、気さくに話しかけてくださいます。取り組んでいる作品のこと、話題のアーティストのこと、レアな世界を教えてくださいと先生のお話の中には、穢れのない純粹な魂の言葉が沢山あり、それはわたくしにとって「癒やし」であり学芸員という仕事の「原動力」でもありました。七戸にお出掛けになると、先生はちよつぱり開放感を感じてくださっているようで、美術館スタッフは皆それが嬉しくて、一層の親しみもって楽しい時間を過ごさせていただいています。そして少しでも多くこの町で「心のオアシスな時間」を過ごしていただけたならと願っています。

戦後日本を代表するあの偉大な彫刻家・船越保武氏や佐藤忠良氏からも注目され、具象彫刻の「今」を背負っているのは、吉野毅先生なのだと思います。月並みな言い方ではありますが、やはり作品にお人柄というか精神性が表れていて、それが先生のすべての作品に一貫しているように思うのです。「夏の終り」は、二科展秋の本展出品作品によく表されるテーマとなつていますが、涼やかに、清廉と、そして凛としたあの女性像にモデルを使うことにはないと思えました。静かなたたずまいの中にも芯を持ち、軸がぶれることなくしっかりと地に立つ、派手な主張はしない「強さ」が秘められた…さあ、勇気を持って未来への第一歩を踏みだそう…吉野先生の作品を前に、わたくしは「かくありたい」そう憧れるのです。決して行きすぎない、抑制のきいた静かなフォルムと、「空」を悟つたかのような穏やかな表情。吉野毅先生の美しくも繊細な心が量となつて形を成している、そのように感じるのでした。

当館には鷹山宇一先生のお顔のレリーフが、町内にも七戸福祉会の玄関前に吉野先生の作品があります。皆様も是非一度ご鑑賞ください。先生、おめでとーうございました。そして、ありがとうございました。

(学芸員)

平成二十四年三月二十五日に開催された鷹山宇一記念美術振興会理事會において、戸館昭吉前館長の後任として、当振興会常務理事・船山義郎氏が鷹山宇一記念美術館長に推薦され、満場一致で承認されました。  
この度、当美術館の五代館長に就任されます新館長より友の会の皆様へ就任のご挨拶をいただいたのでご紹介いたします。

### 就任あいさつ

鷹山宇一記念美術館

新館長 船山義郎

四月一日付けで館長を拝命することとなり、責任の重大さを痛感しております。

当美術館は、JR東北新幹線七戸十和田駅南口玄関に面しており、県内外から美術愛好家などの方々を訪れ、館内の展示作品を真剣に鑑賞している姿に感動を覚えたことが度々あります。

記憶に新しいのが昨年九月二十三日から一ヶ月余にわたる「平山郁夫展」です。日本の画壇の巨匠平山郁夫画伯が昭和二十年勤労動員中に広島市で被爆した後、「平和」を願いつつ絵で綴る「流砂浄土変」などに触れて胸が締め付けられる思いで釘付けとなったことです。

画伯の一日は、被爆した友人を思つて仏壇に手を合わせ、「生かされて、生きる」ことに感謝して始まる」と語っていましたし、画伯のある著



新館長 船山義郎

書では「絵を描いた人が有名であろうと無名であろうと、もし感動するとすれば、それはその絵から『愛』を感じたからではないだろうか。」と述べています。

このことから察すれば、前述の無意識のうちに足が止まったのは、人間への情愛表現に心を揺り動かされたが故であったかも知れません。まさに絵は言葉のない詩であり、魂を癒してくれる不思議な力があるように思えてなりません。

平山郁夫展は当美術館の企画展としては三回目ですが、入館者が一万三千七百人を越えたことは、鷹山宇一記念美術館が「芸術の殿堂」としてあるべき姿を謙虚にして真摯に希求し、人間の生き様の哀歓などを表現した作品を展示し、高い評価を得てきた証ではないでしょうか。

今後、美術の世界に疎く非力な人間であります。先達諸氏のご指導を仰ぎながら、館長としての重責に押し潰されぬよう鋭意努力し、これまで積み上げてきた当美術館の誇りを大切に、「一館一心」を標榜し、胸襟を開いて職員と相和して運営に当たって参る所存です。

最後に、鷹山宇一記念美術館友の会をはじめ、関係各位の温かなご支援を賜りますようお願い申し上げます。就任の挨拶といたします。

### ごあいさつ

鷹山宇一記念美術館

館長 戸館昭吉

新年度から、新館長に船山先生をお迎えすることが出来まして、何よりの喜びであります。

平成二十一年春、館長に就任して三年余、多くの方々から御支援をいただきましたが、非力な私ですら充分なこともなし得ず、大変申し訳なく存じます。

思えば、山形美術館からフランス絵画をお招きしたことを始め、長野上田の無言館の戦没画学生の作品展を開催できたこと。箱根・成川美術館から優美な日本画を。奈良の松伯美術館から、松園先生の三代展を。茨城・笠間日動美術館からの多くの作品と共に、ユニークなパレット展を開催しフアンの人々と共に楽しむことが出来ました。

昨年には、広島平山郁夫先生の美術館から「マルコポーロ東方見聞行」を始め、中尊寺の特別な御高配を賜り、手を合わせて「慈光」を拝見することが出来ました。

この三年余、たくさんの御客様を当館に御招きし、主催者の一人として身に余る幸せを頂戴させて頂いていただきました。

このような成果をいただきました最大の要因は、RAB様からの格別なご支援の賜物でありまして、心か



戸館昭吉館長

ら御礼申し上げたいと存じます。今後平成二十四年度以降につきましても、引き続き、日動画廊、秋山庄太郎写真芸術館、山形美術館、成川美術館、東京マルイ美術株式会社等の皆様から当館への変わらざる御厚情を賜りますよう、お願い申し上げます。

終わりに、新館長に就任する労を御願ひすることとなった船山先生に對しまして、友の会の方々を始め、多くの美術愛好家の皆様から力強いご支援を賜りますよう御願ひ申し上げます。私からの退任の御挨拶と致します。

平成二十四年三月

戸館昭吉館長は、平成二十一年に当美術館館長に就任。美術に對する豊富な知識と幅広い人脈、経歴に裏付けされた優れた企画力、行動力で当美術館の運営に全力で取り組んで来られました。が、本年三月を持って退任されることになりました。友の会会員として心からお礼申し上げます。ありがとうございました。  
(照井)



平成24年度 春 & 夏

# 特別展の ごあんない

## 春 「金山平三・鴨居玲」展

二人の天才画家  
く描く、とことん。生きる、とことん。

▼会期 4/28(土)～6/24(日)

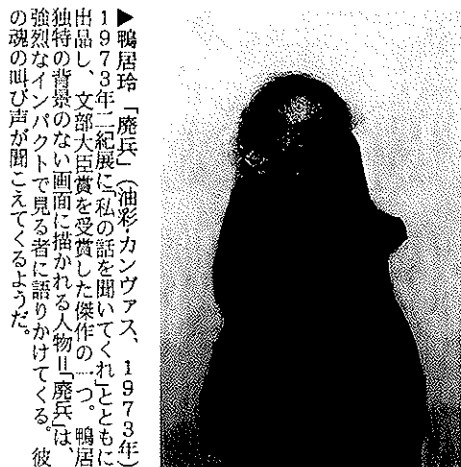


▲金山平三「雪深し」(油彩・カヴァス、1945-56年)表金を表す風景、山作品の多くは、生前の金山が親しくおつきあいをされた山形県大石田町の旧家・金子氏のコレクションによる。

株式会社日動画廊のご協力のもと、青森放送株式会社のご共催をいただき、二人の天才画家を一堂にご紹介する特別展を開催します。

大正・昭和と活躍をした近代洋画界の巨匠・金山平三は、山形、秋田など雪国の素朴な田園風景を愛し、和田湖へも再三訪れ作品にも多く描きました。一方、1985年57才の若さでこの世を去った鴨居玲は、作品すべてが「自己投影の自画像」ともいわれるほど、絵を見る我々が苦しくなるほどの情熱で「人間」を描き続けました。

●本展の詳細は同封のチラシを参照ください



▶鴨居玲「廃兵」(油彩・カンヴァス、1973年)1973年二紀展に私の話を聞いてくれとも出品し、文部大臣賞を受賞した傑作の一つ。鴨居独特の背景のない画面に描かれる人物「廃兵」は、強烈なインパクトで見る者に語りかけてくる。彼の魂の叫び声が聞こえてくるようだ。

東日本大震災で被災されたみちのくの地は、秋山庄太郎が撮影場所にと好んで出掛けお世話になった地域も多く、長い復旧復興の道程の中で、その果たすべき支援の在り方を模索してきた東京・青山の「秋山庄太郎写真美術館」が企画したものです。その趣旨に賛同し、東日本大震災復興支援として開催いたします。



◎原節子(1950年頃)  
◎武坊(1943年/写真集「翳」より)  
◎クレマチス



しさを否定することなく生きようとしたこと。であるからこそ、表された作品は今もなお褪せることなく光を放ち、見る者に深い感銘を与え続けています。

未曾有の「東日本大震災」から1年。未だ混沌の現代社会を生き抜いていく上で、避けることのできない日常の様々な関わり合いの中で、内面の重荷を背負って苦悩の日々を過ごしておられる方々も多いのではないのでしょうか。指標を見失いがちな現世において、「今」を生きる皆様に、二人の天才画家の作品から、これからの人生を歩んでいく上での手掛かりを感じ取っていただけたならと願って開催いたします。

## 夏 「秋山庄太郎写真」展

えがおの日まで「メモリー」  
秋山庄太郎写真芸術の70年

ネガティブからポジティブへ(仮称)

▼会期 7/7(土)～9/9(日)

鷹山宇一とは二科会を通じて長年の親友であり続けた写真家・秋山庄太郎。1994年8月1日の当館オープンングセレモニーにも臨席されるなど花を添えてくださいました。その83年の生涯の中で70年にわたり写真を撮り続け、戦後日本の写真界を牽引、大きな足跡を残しましたが、その歩みをたどった時、彼の人生が順風満帆、平坦であったとは、決して言えません。しかし、数多の苦難や苦悩、苦渋に屈することなく、逆に苦境を作品を生み出す「糧」にしてきました。「ネガティブからポジティブへ」とは、そんな秋山の写真活動や人生の根本であり哲学と言えるでしょう。

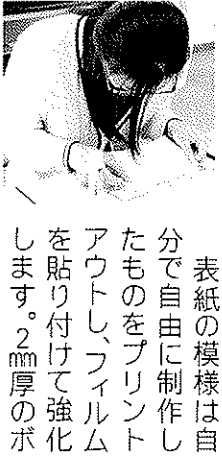
本展では、初期から晩年までの作品を通して秋山芸術の神髄に触れるとともに人生を振り返ります。その作品と生き方を通して、東日本震災で被災された方々のみならず、心の重荷や苦悩を背負いながら「今」を生きる多くの方々に、「心の支援」をおくりたい。また、本展をひときの「こころの休み時間」にしたいだけなら望外の幸いです。

「美術館あそびの会」の活動

今年度の締めくくりは、1月22日に開催した「手づくりアルバム」の様子をご紹介します。この活動、毎年年度末に必ず行っているもの。簡単な製本の技法で、1年間行ってきたさまざまな活動の記録写真を、すべて手づくりでハードカバーの立派なアルバムに仕立てるのです。

今回は、参加者全員が楽しめるように、中身の白いアルバムをつくり、お気に入りの写真をレイアウトするという形にしました。

まずは、中身の原稿となるもの(今回の場合は和紙)を全てきっちり半分に折っていきます。本の見返しとなるページには、厚口の紙を使用します。折り終えたら、紙の輪となる方を自分の向かって奥に置き、1枚ずつ重ねてのりで貼り付けていきます。クリップで固定して乾かし、本の天と地、小口をカッターで切りそろえます。

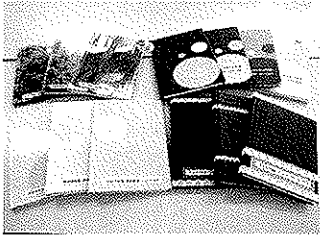


表紙の模様は自分で自由に制作したものをプリントアウトし、フィルムを貼り付けて強化します。2mm厚のボ

ール紙を中にくるみ、ハードカバーの表紙を制作していくと、ようやくゴールが見えてきます。原稿と表紙を接着して完成です。

中身には、昔のアルバムによく使われていた「角あて」で写真を貼り付けし、サインペンで自由に文字を書き込んだり、クラフトパンチでくりぬいたものをかわいらしく飾りつけたりして、世界に一冊だけのアルバムづくりを楽しみました。

この活動を始めて早5年が経ちます。毎年、どんなものづくりをしてきたか、どんな表情で取り組んでいるか、何を記録するために、事業のまとめとしてこのアルバムを制作しています。いつのまにか、こんなにたくさんのが出来上がりました。楽しそうな顔、集中している顔、一生懸命な顔。参加者の無邪気な笑顔がふられて、何年も参加している子どもたちの成長もバッチリ記録されています。何度見返しても素敵なお宝なアルバム。みなさまも、「手づくり」なひとときを楽しんでみてはいかがでしょう。



美 スタッフのひとりごと

この度、一身上の都合により、3月末で財団を退職させていただきます。7年前、大学卒業後すぐに教育普及担当として採用され、手探り状態で仕事をさせていただきました。大学では生涯教育を中心に勉強しましたが、この美術館で様々な人や機会に触れることで、本当に社会に必要とされていることや皆様の生きた声などがどれだけ大切であるか、生涯教育のあるべき姿を身をもって学びました。

「学んだ」と書けば聞かすはいいですが、格好のいい思い出ばかりではありません。最近の美術館は、スタッフが暗い顔で仕事をしています。その中でも少くは笑い話をしたいと思っています。

一勤務帰りに玄関のフロアからジャンプして飛び降りたりひざから転んで全治一ヶ月の大きなけがをしたことがありました。一玄関前の雪がまきまき一人としているときも、早く終わらせようとして無我夢中でスリッパを動かしていたら通りがかりの自衛隊員に雪がぶつかってきたこと。皆さん知らないかも知れませんが、私はかなりアツシなんです。その他の思い出なら、やなせたかし展開催中、見た目がアンパンマンに似ているというだけで、奥日報の取材があり、大きなアンパンマンぬいぐるみの隣に座らされた、写真撮影に応じたこと。一長年いるスタッフは、館長始めいろんな方のものが上達し、ものまねで会話をしあえること。一あければキリがないこの位におきますが笑う、思い返せばみんな本気で笑いあいました。

こんなこともありました。あの有名な漫画家・手塚治虫先生の「あひるの会」の映画化も決定したい時期だったので、あの指揮者はメルメルと一休みたいな人物なのか。え、そのですか? そそもそも実在はしないのですか? ... 歌手・俳優として絶大な人気を誇り、写真を撮ることも知られる有名な人。彼の作品も現存できたら面白かったかも知れません。しかしそれ以前の話題でした。「福〇雅〇と誰だ!」...

私の個人的な考えですが、美術館が未永く生き残るためには、幅広い年齢層に愛される必要があると思います。若い世代をいかに取り込んでいくか、それを考えたとき、前述のような機会を逃してはならないと思っております。しかし、その機会を逃さないためには、指揮者を始め、スタッフ間の相互理解・思いやり・心配りが不可欠です。スタッフの協調なしに展覧会は運営できないからです。そこから本当の笑顔が生まれ、いい空気が生まれ、お出掛けになられたお客様にとって気持ちのいい空間が生まれます。

最後にこれまで続けてきた教育普及の思い出。毎年、「来年の計画は? 必ず来ますから教えてください。楽しみにしています。」「この声を沢山聞いていただきました。本気で泣けるほど嬉しくて。それが私の原動力でした。美術館に来たことのない人が足を運び、この場所を理解してくれる。手前味噌ですが、教育普及を通じて、この環境作りができているのはとても自負しています。また子どもたちから「美術」で携わりたい、最も大切な「素直な気持ち」を感じてほしいです。何でも吸収する素直な子どもたちが、乾きすぎた入骨には、お水でもさそって吸収しません。そこが子どもたちの不思議なところ。乾きすぎた前に、お水でもさそって吸収してあげたい。そんな想いで活動を企画し、地域の皆さんと接してきました。

ひびひびと成長長くなってしまいました。場所が変わっても、私は「美術」をツールとして子どもや地域の人々の生涯教育に関わる仕事をしていきたいと考えています。このひびひびとで、私に少しも興味を持った方は気軽に連絡下さい。笑って話さなければいけません。これから「笑顔」を忘れず日々精進して参ります。至らない私を、辛抱強く指導して下さい。下さる皆様、長い間本当にお世話になりました。心から感謝申し上げます。ありがとうございます。

(教育普及担当) 佐伯知美



# 鷹山美Presents アート・ツアーから

平成22～23年度「ふるさと雇用再生特別基金」を活用した七戸町からの委託事業《アートでおもてなし～芸術文化観光推進事業》では、七戸十和田駅前美術館を有する町ならではの芸術文化によるおもてなしと観光の充実を図り、町の魅力を再確認しようという趣旨の下、専門員1名を雇用・育成しながら様々な事業を企画・実施してきました。「おもてなしワークショップ」「まちかど美術館」、そして「アート・ツアー」もその一つです。美術館を飛び出し、収集作家や収蔵資料ゆかりの地を訪ね、館内で作品を鑑賞する視点とはまた別の角度から理解を深めようという「楽」習講座です( \_ )

ここでは、今年に入って開催した2回のツアーから、楽しんでくださった参加者の皆様の中でも特に熱心に、そしてご満喫いただいた素敵なお二方に、僭越ながら原稿をお願いしました。一つは、当館ランプ館に装飾されている池内康氏のステンドグラスにまつわるツアー。今一つは、当館収集作家の一人・鳥谷幡山にちなんだツアーから…。ご紹介します!!

## 「ステンドグラス」を

### つくるうーのたび

森田 和佳子

3月4日(日)朝、その日の天気は、ずうっと続く雪・雪・雪の日と違い、晴れの日で気温も高く外出には軽くハミングしたくなる様な朝でした。

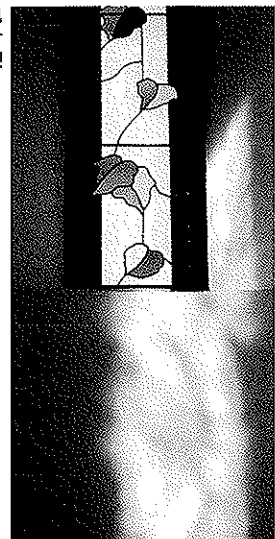
まずは、身支度です。何を着るか迷うのも楽しく、セーターはどれにしよるか、マフラーはどの色、スカートだと寒いかしらなんて、思わず一人で苦笑いです。まあ、誰も見てはいないけれど、少しは華やく気分になりますね。

9時集合。美術館の前には、マイク口バスが待機しており今日の参加者



▲ステンドグラス工房にて、小林静子先生のご指導をいただき、一般家庭にも利用可能！先生オリジナルデザイン・繊細模様の本格的なステンドグラスづくりを体験しました。実際に制作することにより、ステンドグラスの仕組みを理解することができます。これから行方先々できるとステンドグラスを見る目が変わるのでないでしょうか！

▶当館ランプ館。池内康氏の優美なステンドグラス。素敵です!



が、「おはよう」「お久しぶり」と和やかな挨拶交換で車内は盛り上がりです。さあ、出発です。職員に見送られ一路八戸のステンドグラス工房へ。いざ行かん。車窓の眺めは、やはり雪ですが、八戸が近くなるにつれ雪が少なく路面も乾いて同じ県南と思えない気候の違いを感じました。市内に入るとバスは会場であるステンドグラス工房に到着です。先生の出迎えて教室に入るとまず、最初に映るのは沢山のステンドグラスの作品です。とても、綺麗で思わずため息がこぼれました。

10時。先生の挨拶と共に今日制作する、薔薇模様のミニパネルの作り方の説明があり、ステンドグラスづくりが始まりました。作業台に置かれたモチーフに銅を巻きつけ、薬品を塗り、はんだゴテで接合、と制作は2時間あま

りで完成です。ただし、銅のテープを巻きたつても、が、「あら、足りない」「切っちゃえ」…はんだゴテでは、鉛が勝手に流れて、鉛アートの完成です。悪戦苦闘のチャレンジは脳の活性化と指先の訓練となりました。ちよつと見栄えは悪くても自分の作品はよく見えます。手前味噌ですが、今では、我が家の特等席に置かれ毎日私を出迎えてくれます。いいものですね……2時間の時は作る喜び、出来上がる喜びの時間でもありました。ちよつとしたマイスター気分です。

12時も少し回り体内時計はお昼のお知らせです。つきは、店名がこじやれたレストランです。く、巴里の空の下でく、以前、巴里の空の下で流れるオムレツの匂い…の題名の石井好子さんのエッセーを思いだし、パリジャン気分

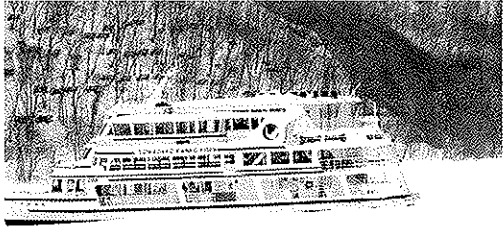
す。店のドアが開きマドモアゼルの出迎えます。ランチは美味しく、おしゃべりも弾み最高でした。

午後は更上閣の雛人形展鑑賞です。更上閣は、お庭えんぶり以来の訪れです。中に一歩入ると百聞は一見にしかず。雛の美しさは宝石で例えるならルビーの輝きです。江戸時代後期の物を中心に名家や豪商の所有していた雛飾りです。歴史のタイムスリップです。篠笛の音が響き雛の雅さは、悠久の時を超え微笑んでくれました。

最後の見学は、ハッチと市内の自由行動で終わり、七戸へまっしぐらです。到着と共に美術館の館内へ入り、ランプのコレクションを見学、美術館天井ドームのステンドグラスを眺めました。丁度夕方の西陽にステンドグラスが光の透過と屈折により更に輝きを帯びてキラキラと万華鏡の世界を映している錯覚を感じました。少しの興味と行動が楽しい一日となりました。また企画をお願いします。職員の皆様感謝します。

# 「鳥谷幡山を知る！」 スノーシュー de 歩く 「冬の十和田湖」

小原 保之



④氷に閉ざされた遊覧船 ①一面の雪原に浮かぶ小島

コースは、午前は徒歩で乙女の像から十和田神社まで軽いウォーミングアップ。午後はスノーシューを歩いて中湖展望ポイントまでのトレッキングであった。私は四度目の正直の初参加であったが、ラッキーが四つあった。

二つ目は中湖展望ポイントから俯瞰した眺め。右に御倉半島、左に中山半島、その一帯は雪原だが中湖は深いためか中央部分だけ凍らず湖面が見えている。深い森を潜り抜けやきつい登りの後だけに思わず歓声があがった。

三つ目は、個人的な趣味の大収穫。特に十和田神社と坂上田村麻呂と小坂鉱山との興味深い歴史の話（エミシ、アラハバキ、七戸のペゴケエドウなど勉強必要そう）、更にドロノキやサワグルミの新しい役割、ホオノキに群落のない訳、きのこ菌にもある雌雄、ノウサギの二度糞、熊と人の関係などなど植物や動物について眼からうるこ的な話をガイドさんからたくさん聞いたことである。



最後に好天と企画担当者とバスの安全運転手に感謝、ありがとうございました。

## 美術館誌 pickup

### 【12月】

▼2日(金) アスパムにておもてなしストラップ(せんべい)づくり出前講座(佐伯 織川)▼3日(土) 七戸十和田駅にて開業1周年記念式典開催！記念イベントとして、おもてなしストラップ(せんべい)づくり出前講座実施。ご当地ストラップは大人気です!!(佐伯 織川)▼19日(月) 休館日を利用して「平野勲展 後期作品」へ展示替え作業(天池 織川)▼26日(月) 上北地方図工ゼミ連携ワークショップ講師として出前講座(佐伯)

### 【1月】

▼14日(土) 冬休み特別工作「かぶりものを作ろう」開催(織川)。JAFイベントデーへシルバリアクセサリーづくり出前講座(佐伯)。友の会役員会、新年会開催▼22日(日) 鷹山賞、平野勲展等特別展最終日▼31日(火) 絵馬懇談会開催

### 【2月】

▼4日(土) 鷹山宇一と七戸ゆかりの画家たち展初日。県立郷土館へ貸出中の資料返却▼18日(土) 宮城県角田市教育委員会より佐藤様ご来館。絵馬収蔵庫や資料の保管方法等視察！自主研修(自費)だそうです。何事も「信念」志の高さあってこそですね！

## わがまま雑記●○○

「信念を持って己の道を行く若者たちの一光になればと念じつつ…」とは、美術館開館に際して鷹山宇一先生が贈った言葉。そして朋友・秋山庄太郎先生は「ネガティブからポジティブへと、自らの人生哲学をその仕事と生き様で示してください。ださった。どんな苦悩も苦境も、ただその人の信ずる揺るぎない「心」があれば、これを糧として前進あるのみ、道は必ず開かれる——しかし今、実直に、勤勉に、世のため人のために生きることより、私利私欲を追求し、そのためには何でもするとコマをすり、虚偽を正義と言ひ、人を陥れることが不義とは言われない腐敗が現実にある。鷹山先生や秋山先生が信じ貫いた道とは、もはや過去の遺物なのか…人の心はずでに世紀末。志ある人間は次々と消え去り闇に葬られる。無垢な魂を持った若き人々が、平穩のうちに信念を貫ける日々が当たり前前のこととして認められる世の中でありたいように。今は残された時間を大切に、果たすべき使命を全うするのみ。こんな時だからこそ「金山平三十鴨居玲」展。今を生きるあなたに捧げます。(亜)

I & YOU frank miscellaneous notes

アート・ツアープランA  
「ステンドグラスをつくらう」  
に参加して

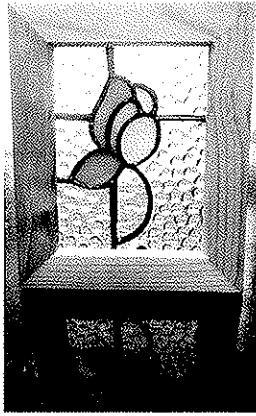
七戸町 堀井史子

親しい友人をお誘いしての申込みだったのでバス遠足を待ちわびていた幼い子供のように前日からわくわく気分、もちろん当日も引き続きわくわく気分です。3月4日(日)のアート・ツアーに参加させていただきました。

参加者と同行者2名がワイワイガヤガヤと車中でお喋りを楽しんでいるうちに八戸市長苗代二日市の「ステンドグラス工房 KOBAYASHI」に到着。早速、持参したエプロンに着替えて作業台に向かいました。

作業台には木枠に納められたステンドグラス11個のパーツがおかれており、「薔薇模様のミニパネル」の制作に取りかかりました。

小林先生の「初心者コースよりもちょっと上のコースです」という説明に気を引き締めて、銅箔のテープをガラスの側面に沿って巻く工程から始まりました。ステンドグラスの厚みのセンター



とテープ幅のセンターをきつちりあわせ転がすように貼っていくことが思いのほか難しく時間がかかりました。

ひとつのパーツに銅箔テープを巻きながら「意外に難しい・・」や「や」といって「こんな感じかな」といついた声も徐々に途絶えがちになり、集中力が高まりアトリエ全体がシーンとなり始めたころ「この静けさ、この緊張感がいいんですよね」という小林先生の激励の言葉を頂きました。

銅箔テープを巻き付ける工程はまだまだ序の口前、その後は「ハンダ付け」の工程、次に薄手のゴム手袋してパティナー(というらしい)でハンダ部分を黒くする工程、最後の磨き、などなどの工程を経てやっと完成です。

ご指導いただいた小林先生を囲み、完成作品を手にして記念写真(写真・左下)を撮りました。

帰宅して、記念すべき第一作を早速テーブルの上に飾り、最近使い慣れてきたデジカメで撮影(写真・左上)しました。

現在、「薔薇模様のミニパネル」は、わが家の居間に彩りを添えています。

同じ材料、同じ道具を使用して作業を進めても完成品には個性があることを改めて実感しました。だからこそ作品の出来不出来に関係なく一生懸命取り組んで作った作品に対して愛着がわくのではないのでしょうか(自分への励まし?)

作品を完成させアート・ツアーの目的を達成した満足感にひたりなが



らバスに乗りし、昼食メニューに思いを巡らせているうちにフランス料理店「巴里の空の下」に到着。

お店の名前を見て「あれ?どこかで聞いたことがあるなあ」と思いましたが、思い出すことよりも食事を楽しむことを優先、スープ、パン、そしてメインディッシュのお肉料理、特にデザートは塩胡椒のアイスクリームは、初めていただきましたがさっぱりしていてとても美味しく、お喋りを楽しみながらランチタイムを過ごすことができました。

昼食後は、八戸市中心街で開催中の「はちのへ雛めぐり」を鑑賞させて頂きました。はちのへ雛めぐりは登録有形文化財「更上閣(こうじょうかく)」の雛人形展と連携して開催するもので、今年で2回目、更上閣と八戸ポータルミュージアム「はっち」、南部会館をメイン会場に3月1日(木)から18日(日)まで開催されているそうです。また「悠久の時を越え、愛され大切に伝えられてきた、美しい雛人形たちが『まちなか』に集います」というキャッチフレーズもステキだと思います。更上閣に飾られた雛人形(写真・



真中)を見ながら、いつか孫と一緒に「まちなかのひな人形」を見て歩きたいと思えました。

3月初旬の八戸市内は、雪が少ないというより「雪がまったく無い」ことに驚き「いいなあ・・」と思いましたが住めば都、住み慣れた七戸町がやはり、一番です。

専用バスで八戸を往復、作品作りの講師料・材料費、昼食代、入館料を含んでお一人様4千円は絶対「お得!!」でした。

最後になりますが、美術館からは大池様、織川様が同行して下さいましたので安心して小旅行を楽しむことが出来ました。ありがとうございます。

これからも楽しくてお得な企画をお願い致します。  
(友の会会員からの投稿です)



# 平成24年度研修旅行～先行ご案内～ 「世界文化遺産中尊寺の旅」&「大原・平山・大塚美術館の旅」

平成24年度友の会研修旅行の予定をご案内致します。皆様の美術鑑賞計画のご参考にして頂くとともに、友の会主催の研修旅行にご参加下さいませよう、ご案内申し上げます。

平成24年度 第1回研修旅行  
日 時:平成24年7月28日(日)予定  
研修先:岩手県 中尊寺・平泉文化遺産センター  
募 集:会報(第67号6月15日号)で案内  
参加費:10,000円程度  
募集人員:35名(最少催行人員は20名)



昨秋多くの入館者で賑わった「平山展」の際に、平山先生のこの秘仏を描いた作品は、深い感動を与えてくれました。  
中尊寺は、世界文化遺産の登録記念と東日本大震災の復興を祈願し、秘仏「一字金輪佛頂尊座像」(重要文化財)を7月17日から12年ぶりにご開帳することになりました。

今秋の友の会研修旅行として「大原美術館・平山郁夫美術館・大塚国際美術館」を訪ねる芸術の秋の旅をご案内致します。

これまで国内遠方への研修旅行を実施して参りませんでしたが、なかなか訪れる機会の少ない西日本の美術館を訪れる旅を、下記のとおり計画しております。  
ただ今役員会で検討中ですが、次号の会報で具体的な日程と詳細をお知らせ致します。

平成24年度 第2回研修旅行  
日 時:平成24年 秋 予定(10月～11月)  
2泊3日  
研修先:岡山県 大原美術館  
広島県 平山郁夫美術館  
徳島県 大塚国際美術館  
募 集:会報第67号(6月15日号)で案内  
参加費:135,000円程度  
募集人員20名(最少催行人員は15名)

県内美術館の平成24年度計画が発表され次第、県内美術館研修旅行も企画して参ります。

## 友の会会員登録の更新と 新規会員登録入会お誘いのお願い

平成23年度も会員の皆様には、友の会運営に多大なお力添えをいただき、誠に有り難う御座います。  
新年度も鷹山宇一記念美術館の応援と会員の皆様にご協力をお願いいたします。講演会等を企画し、微力ながら地域文化の発展に寄与していく所存でございます。  
平成24年度更新手続きは、美術館窓口と郵便振替により行っておりますのでよろしくお願ひ致します。

### ○友の会の事業内容

- ①県内外美術館研修視察旅行(年2～3回)
- ②海外美術館研修旅行(第5回海外研修旅行) 2012年4月 オランダ・ベルギー美術紀行)
- ③美術館作品購入基金への協力
- ④鷹山宇一記念美術館ボランティア協力
- ⑤会報の発行
- ⑥その他(美術講演会の開催等)

### ○一般会員

年会費 3千円  
①無料入館券3枚。会員証提示により入館料2割引

- ②ミニシアムグッズ1割引
- ③研修会、講演会への招待、優待
- ④他美術館等の視察研修への優待参加
- ⑤会報の配布

### ○特別会員

年会費 1万円  
①一般会員特典に加えて

- ②新規加入の方に画集1冊贈呈
- ③新規加入の方に画集1冊贈呈

### ○賛助会員

年会費 2万円  
①一般会員特典に加えて

- ②新規加入の方に画集1冊贈呈
- ③特別企画展の都度、招待券を贈呈

◇詳しくは、美術館までお問い合わせ下さい。

### ★お知らせ

★会費の納入は随時受け付けておりますが、10月1日以降に新規会員となった方は、翌々年の3月31日までの会費となります。

★会員の方で監視ボランティアにご協力出来る方は美術館までご連絡をお願い致します。

### 編集後記

★会報第66号をお届けします。  
★新館長が決定。新たな体制のもとで美術館を心から応援して参りたいと思っておりますので会員の皆さまのお力添えをよろしくお願ひ致します。  
★東日本大震災から一年、いままも避難生活を強いられる方々の一刻も早い生活再建を心からお祈り申し上げます。(T.T)